＊第６次署名　　2024年度2回目の新たな請願ですので、過去に署名してくださった方も再度お願いします

東京都議会議長　　宇田川聡史殿

**中学校英語スピーキングテスト実施状況調査と結果の活用中止に関する請願**

東京都教育委員会（以下都教委）は民間業者と協定を結び、令和４年度から全公立中学３年生を対象に中学校英語スピーキングテスト（ESAT-J）を実施し、その結果を都立高校入試の合否判定に活用してきました。これには多くの問題点があることが専門家、教員、保護者等から指摘されていますが、都教委はそれに応えようとせず、さらに令和５年度からは入試で活用するだけでなく、新たに１・２年生でもスピーキングテストを開始しました。

**透明性・公平性・公正性・個人情報保護の観点のないテスト**

1. 令和４年度、５年度いずれのESAT-Jにおいても、解答に影響する音漏れがあったと受験生等から多くのアンケート回答がありました。また令和6年度から事業を引き継いだブリティッシュ・カウンシルが中学3年ESAT-Jの練習としても行った中学１・２年生対象のYear 1, 2のテストに関して、これまで以上の音漏れ状態であることが学校現場から指摘されています。令和６年度のESAT-Jも同様の問題が起こることが予想されます。
2. 不受験者には、学力検査の得点が同程度の受験生（前後10名程度）のESAT-J結果平均から見込み点が与えられましたが、その妥当性を示す統計的根拠はありません。
3. このテストでは、個人情報（顔写真含む）を民間業者のサイトに登録する必要があり、情報漏洩の危険性、個人情報利用の不透明さに懸念を持っている受験生・保護者への配慮がなされていません。また今年度は登録時にシステムの不具合により、登録ができない、他校の生徒情報が学校に届くなど大混乱が起きました。業者のテスト運営能力と、都教委の監督体制への不安、不信が一層深まっています。

**授業と英語教育の質の低下、教育格差拡大の懸念と不適切な予算利用**

1. 人間とのやり取りではなく機械に向かって、自分とは関わりの感じられない内容について一方的に説明する問題で、英語でのコミュニケーション力を測り、向上させることができるのかは疑問です。試験を動機づけにするのでは、本来の目的ではなく、試験で高得点を取るための学習に目が行きがちになります。
2. 経済的に厳しい状況の家庭の子どもには、ESAT-Jは不利に働きます。新学習指導要領下で英語学習がさらに難しくなる中、塾に通える子とそうでない子の間で格差が広がります。
3. 令和6年度予算額が43億円に増額されていますが、公教育は、すべての生徒の力を伸ばすために行われるべきです。これだけの予算があれば、外国人英語指導員も含め不足している英語科教員の確保、35人学級の実現が可能となり、英語を話す力の育成にも十分効果をもたらします。

請願事項

1. 都において、中学校英語スピーキングテスト（以下「ESAT-J」という）実施直後に受験生全員と各学校（教員）等に実施状況に関する調査を行い、すみやかにその結果を公表してください。
2. 都において、ESAT-J結果の令和7年度都立高校入試への活用を中止してください。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| お 名 前 | 　　　ご 住 所　　　（「同上」「〃」は使わないでください） | （印） |
|  | 都 県府 道 |  |
|  | 都 県府 道 |  |
|  | 都 県府 道 |  |
|  | 都 県府 道 |  |
|  | 都 県府 道 |  |

＊ご記入いただいた個人情報は、この署名目的以外には使用しません ／ 本人による記載の場合押印は不要です

**取り扱い団体**

**呼びかけ団体**

**都立高校入試へのスピーキング　　テスト導入の中止を求める会**

【署名送付先：〒102-0084　千代田区二番町12-1エデュカス東京5階

東京教育連絡会　　202４/11/１１　必着】

＊ご質問・ご意見はこちらへ：　**stoptokyospeakingtests@gmail.com**